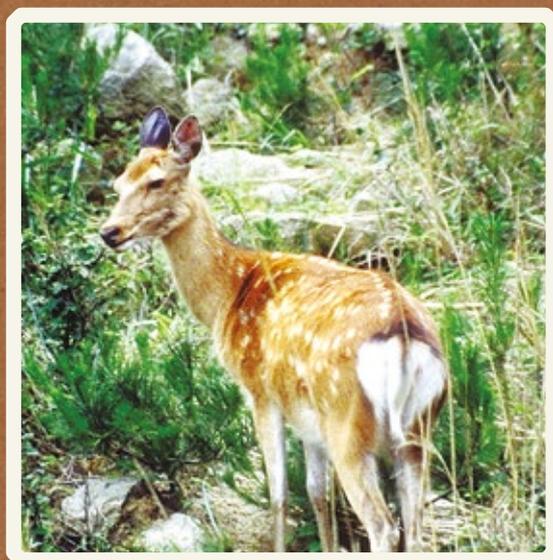


# 鳥獣被害

みんなで  
防ぐ!



# 対策マニュアル



## 目次

鳥獣被害を増やしていませんか	2
鳥獣被害対策はどうすすめる?	3
鳥獣被害対策の基本ポイント	4
イノシシの生態と対策	6
ニホンジカの生態と対策	8
ニホンザルの生態と対策	10
府中市鳥獣被害対策補助金一覧	12

## 鳥獣被害の原因



# 鳥獣被害を増やしていませんか？

鳥獣被害が増えるのは、被害を増やすような状況が集落内に放置されていたり、当事者として自覚ある取組みになっていないからです。集落の現状を皆で確認してみましょう。

## 餌付けしていませんか？

被害が起きる原因のひとつは、集落内に人間に咎められることのない餌と安全な潜み場があるからです。



## 人馴れさせていませんか？

餌となるものが集落内に放置され、しかも追い払いもしなければ、野生動物から安全な餌場として認識されます。

- たまたま集落に行ったが、危ない目に遭わずにエサが食べられた。もう一度行ったが、再度危ない目に遭わずにエサが食べられた。  
→ 「ここはいつ行ってもエサを食べられる場所」と学習します。
- 集落に行って人に見つかったが、簡単に逃げることができた。もう一度行った際にも人に見つかったが、今度も簡単に逃げられた。  
→ 「人間はこっちを見ても何もしてこないの、人間は怖くない」と学習します。

## 人間本位に考えていませんか？

動物がどうしたら本当に嫌がるか？ 動物の目線になって考えることが必要。

### 人間はこう考える

- 専門家に任せれば安心!!
- 爆音機や花火で驚かせれば簡単に追い払える!!
- 耕作する田畑さえ守ればOK!!
- 柵を設置すれば大丈夫!

### 動物の気持ちになれば…

- 「住民は見ていてだけで追い払いしてこないから全然怖くない!」と思っています。専門家任せにせず、住民も当事者になりましょう。
- 「大きい音がするから最初は怖かったけど、何にも危害がないから怖くない」と思っています。大きな音には慣れてしまうので、別の対策をとりましょう。
- 「人間が管理している園地以外に出て何も怒られないから大丈夫」と思っています。管理放棄園も監視領域にして、草刈りをしたり、追い払ったりしましょう。
- 「いつも変わりばえのしない柵だから、一度突破できたら楽勝だ」と思っています。柵を整備しなおしたり、柵の内側に網を張ったりして突破を防ぎましょう。

## 基本的な手順

# 対策 鳥獣被害対策はどうすすめる？

鳥獣被害への対策は、以下の①～④の順序で行いましょう。これを火事への対応に例えると、第一に防火(①、②)、第二に初期消火(③)、第三に消防署による消火活動(④)ということになります。

## ① みんなで勉強!

野生鳥獣の生態や習性を知り、何が餌付けになるのかと集落のみんなで理解することが重要です。普段の行動が餌付けになっていることに気づきましょう。そのうえで、自分たちで何ができるのか考えてみましょう。



## ② 守れる圃場、守れる集落に環境改善!

野生鳥獣にとって餌場としての価値が低くなるように、圃場や家の周りの環境を改善していきましょう。潜み場となるヤブや竹林は刈り払い、餌となる放任果樹は処分します。また収穫残渣や生ゴミも放置せず埋設などの処置をしましょう。

## ③ 柵で囲い、皆で追い払い!

柵で圃場を囲うことは有効な対策ですが、集落内の餌のうち、柵内のものだけを手出しにくくする手段にすぎません。周りに餌があれば野生鳥獣は柵の外を狙います。効果をあげるために、柵の周りの環境が餌付けになっていないか確認したり、草刈りをしたりして、メンテナンスをしっかりと行いましょう。

また、追い払いは集落の皆で日常的にやりましょう。ロケット花火がなければ石ころ、木切れを投げつける、大声で威嚇するだけでも良いのです。各人ができる範囲でかまいません。人間は怖いぞという態度をしっかりとることが大切です。



## ④ 駆除

①～③までをしっかりやることで、実際に被害を出している個体を効率よく捕獲することが出来ます。(集落に餌がなければ、罠の餌が魅力的に見えるのです)



# 鳥獣害対策の 基本ポイント

まずは、鳥獣を寄せつけさせない環境づくりが、対策の基本です。身のまわりを点検し、ヤブの刈り払い、追い払い、収穫残渣や生ゴミの撤去などを行いましょ。また被害が進行した場合には、柵を設けたり、捕獲したりすることが、重要な対策となります。

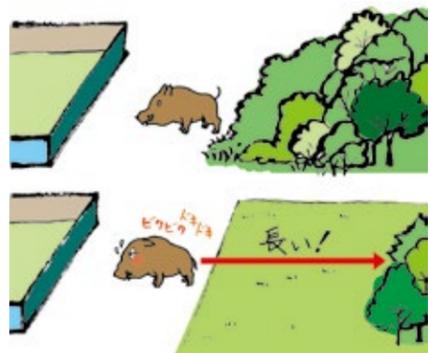
## ポイント その1

### 近づけさせない!

田畑近くのヤブは、野生鳥獣の格好の潜み場となります。また、見かけてもそのままにしておくと、どんどん人慣れが進みます。地域ぐるみで潜み場の解消や追い払いを行い、野生鳥獣を近づけさせない環境をつくっていきましょう。

#### 潜み場をなくす

家や田畑のまわりのヤブは、鳥獣にとって格好の潜み場や田畑への侵入路となっています。ヤブを刈り払い、見通しの良い場所に変えていきましょう。



#### 追い払う

農作物の生育期や収穫期だけでなく、見かけたら年中追い払いましょ。「人間は怖い!危険だ!」と学習させることが必要です。



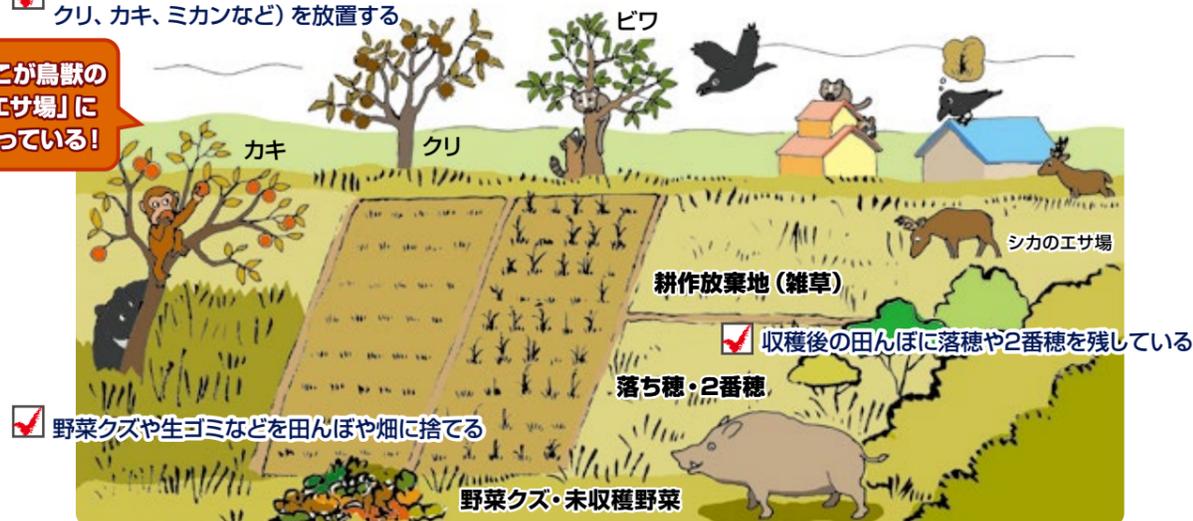
## ポイント その2

### 「餌場」をなくそう!

農作物はもちろんのこと、身のまわりの思わぬものが野生鳥獣を引き寄せる餌となります。野生鳥獣にそこが餌場だと学習させないように、田畑や家のまわりの環境を改善していきましょう。

- ✓ 収穫しないまま果実(ビワ、スモモ、クリ、カキ、ミカンなど)を放置する

ここが鳥獣の「エサ場」になっている!



- ✓ 野菜クズや生ゴミなどを田んぼや畑に捨てる

## 囲いで守る!

### ポイント その3

身近にある自家用菜園など、小規模な田畑を守るのに欠かせないのが柵です。柵には、ネット柵、電気柵、金属フェンスなどいくつかの種類があります。それぞれの特徴を把握し、獣種や現場にあわせたものを設置しましょう。

#### ネット柵

- 安価で設置が容易。
- 防除効果がやや劣る。
- 強度が弱いため、設置後の管理が必要となる。
- ステンレス線が編みこまれていない網は、噛み切られることがある。



コスト:100 ~ 300 円/m

#### 電気柵

- 安価で設置が容易。
- 高い防除効果がある。
- 漏電防止のための草刈り、電圧チェックなどの設置後の管理が必要となる。
- 獣種ごとに、電線の高さや間隔を考慮する必要がある。



コスト:300 ~ 500 円/m

### ❗ 飛び越えやくぐり抜けにも対応を!

シカ対策用の柵は、1.8mほどの高さに設置することが必要です。また接地面に単管パイプなど棒状の物を沿わせて柵に固定することでくぐり抜けを防ぐことができます。



### ❗ 定期的に柵のメンテナンスを!

柵に穴があいたりすると、シカはその穴の場所を覚え、何度でも同じ穴から侵入しようとしてきます。補修はしっかりと行い、侵入されないよう定期的に管理をしましょう。電気柵の場合には、漏電防止のために草刈りを忘れずに行いましょう。

❗ 柵は張ってからが始まり。追い払いと組み合わせ、定期的にメンテナンスをしていくことで、防除効果が長く続きます。

## ポイント その4

### 捕獲する!

被害が減らない場合には、捕獲を行います。効果的な捕獲とは、被害を引き起こしている個体を狙うことです。ただし、捕獲には免許が必要です。免許を取得し、積極的に捕獲に取り組みましょ。

### 山の10頭 < 里の1頭を

山奥の鳥獣の捕獲数を上げるより、田畑の食べ物に依存する鳥獣を狙うほうが、被害は減少します。



#### 被害対策に適する資材

農作物被害のための捕獲は里の加害個体を捕獲しなければならないので、銃やくくりわなは向きません。これらの手法は誤射があったり、手負いの個体を出しやすいからです。

箱わな・囲いわな > くくりわな > 銃

# イノシシの生態と対策



イノシシは十二支(干支)のひとつで私たちに  
とってなじみのある動物ですが、意外とその生  
態は知られていません。被害対策の第一歩は、ま  
ずイノシシのことを正確に知り、ほ場周辺の生  
活痕跡を見逃さないことです。

## イノシシの生活痕跡 (フィールドサイン)



## 生態

**食性** 雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べます。農作物のほか、昆虫やミミズ、ネズミなどの小動物もエサとしています。草や木も食べます。

**行動** 本来は昼に行動する動物ですが、人の影響が少ない夜間に活発に行動します。落葉広葉樹林や茂み、耕作放棄地や竹林など食料になるものが豊富にあり、身を潜められる場所を好みます。記憶力がよく、侵入に成功した仲間の行動を真似するなど、高い学習能力を持ちます。その一方で警戒心が強く臆病。通りなれたけもの道を往復して移動します。ジャンプ力があり、垂直に1.2mの高さを飛び越えるだけでなく、20cmの隙間もくぐり抜けます。鼻で押し上げる力によって70kgの石を簡単に動かすことができます。

**繁殖** 交尾期は年に1回で12～2月頃、出産期は4～6月頃。満2歳で初産を迎え、平均4～5頭を産みます。寿命は飼育下で10年、自然環境では5、6年程度です。

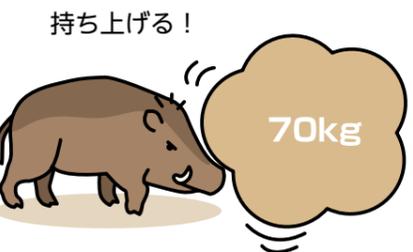
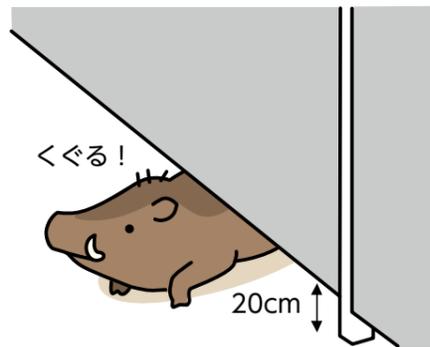
## 特徴

- “猪突猛進”はパニックになって逆上した時の姿。本来警戒心が強く、臆病で注意深く、あまり人前に姿を現しません。反面、いったん慣れると大胆不敵にもなります。
- 鼻は敏感で、周囲の臭いや感触をさぐる際に使われる一方、地面を掘ることもできます。
- 体毛は太く、剛毛で、電気を通しにくくなっています。

## 被害状況

最大の被害は根菜類と乳熟期以降の水稻です。水稻では穂の食害のほかに、踏み荒らしとヌタウチによる倒伏もあります。

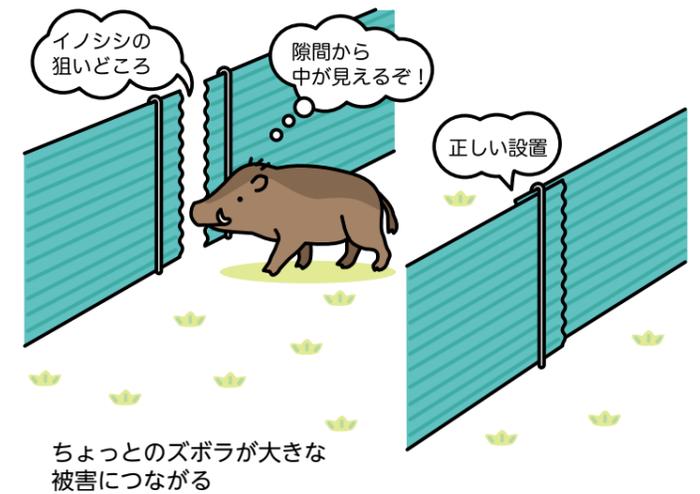
### イノシシの驚くべき身体能力



## 被害防止のためのワンポイント・アドバイス

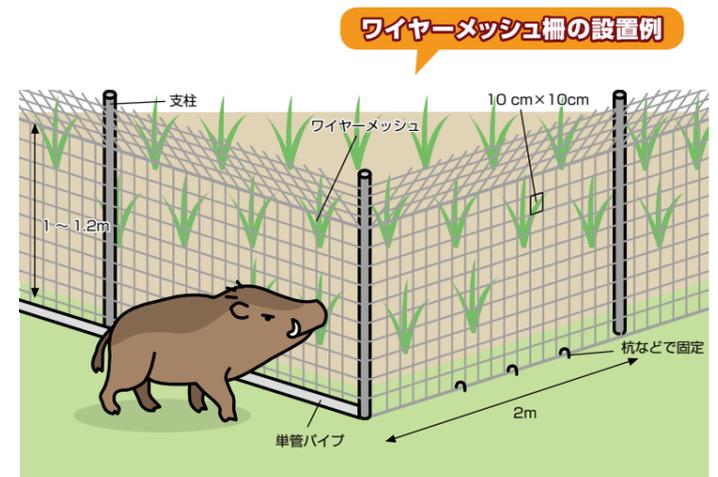
### トタン板

- 視覚を遮断する効果に優れます。
- 1枚だけでは高さが不足するので、2枚継ぎ足しや他の資材との組合せで、高さ1.2m程度まで上げて、飛び越えられないようにしましょう。
- 起伏のある場所では、地面とトタン板のすき間ができて、そこに鼻を入れ、トタン板を持ち上げられるので、凸凹があればよくならし、草など刈った後に設置しましょう。
- トタン板同士の継ぎ目が破られやすいので、重なり部分は厚めにしましょう。
- 押し倒されないように、支柱の強度と設置間隔にも注意して下さい。



### ワイヤーメッシュ

- ワイヤーメッシュは、丈夫な鋼線を縦横に溶接した建築資材で、視覚的遮断効果はありませんが、強度に優れた柵として利用できます。
- 鋼線が細いと折り曲げられ、升目が大きいとウリボウに侵入されます。10cm升目で太さ5mm程度のものが理想ですが、高価で重いので3.2mm、4mmのもので代用も可能です。この場合は、支柱の間隔を詰めるなどの工夫をして下さい。
- 飛び越えられないように十分な高さ(1～1.2m)を確保しましょう。
- 押し倒されたり、鼻で持ち上げられったりしないように適当な間隔で頑丈な支柱を立てます。
- 地面と接する部分をくぐり抜けられないよう、支柱の間2～3カ所に、杭などで固定するか、単管パイプなどを地面に這わせてあてがい、結束して補強します。
- 上部30cmの部分を外側に20度折り曲げると、イノシシが接近しても乗り越えることはできません(上図)。



### ネット類

- 起伏のある場所や斜面の多い場所でも設置が容易です。
- 編み目を押し広げられたり、食い破られたりしないように目合いが10cm以上のものは避け、丈夫なものを選びましょう。
- くぐり抜けられないように接地面を折り返したり、杭などで固定しましょう。

# ニホンジカの生態と対策



ニホンジカ(以下シカとする)は森林と草原との間を行き交う「林縁の生活者」です。生息地が農林業生産の場と重なりやすく、被害を引き起こしやすくなります。被害を防止するためには、生態や特徴を正確に知り、集落内の生活痕跡は見逃さないことが大切です。

## シカの生活痕跡 (フィールドサイン)



## 生態

**食性** アセビなど特定のものを除いて、ほとんどの植物を食べる草食動物です。冬期には、秋に草刈りをした道路わきやあぜなどに芽吹いた緑草を好んで食べます。

**行動** 1.6m以上の高さを超えるほどのジャンプ力を持っています。ただし、かかとが丈夫ではないため、網などのかかとを傷つけるものを嫌います。通常オスとメスは別々の群れをつくって行動しています。活動は昼夜を問わず、2～3時間採食して、2～4時間反芻をするリズムをくり返しています。



昼夜を問わず活動し、植物を採食する

**繁殖** 交尾期は年1回で、9～11月頃、出産期は5～6月頃。満2歳で初産を迎え、以後毎年1頭を出産します。寿命は10～12歳程度です。



## 特徴

- 警戒心が強いですが、図太さも持ち合わせています。
- 昼間は森林域にいて、田畑には夜間に出てくることが多くなります。
- 視覚と聴覚は人間と大差ありませんが、嗅覚が発達していて、臭いで危険を察知します。「ピィッ」という警戒音を発して仲間に危険を知らせます。
- 田畑の地際にすき間があれば、くぐり抜けることができます。



## 被害状況

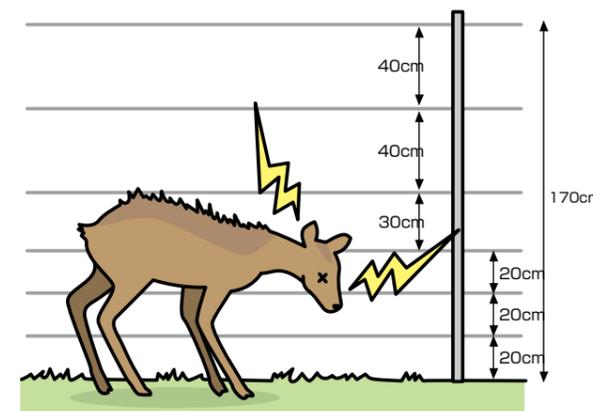
主に食害で、食性の幅の広さから水稻、大豆、野菜、飼料作物など、あらゆる農作物が対象となります。水稻では踏み荒らしも深刻です。



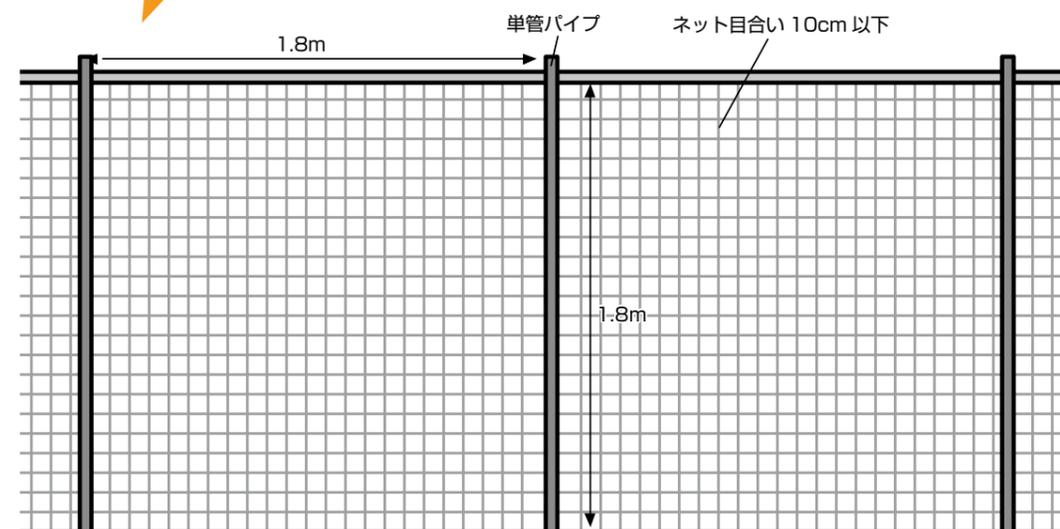
## 被害防止のためのワンポイント・アドバイス

### 1 防護柵の高さは1.8m程度に！

- 防護柵によって物理的にシカの侵入を防ぐのが最も効果的です。
- 柵にはトタン、ネット、金網フェンス、電気柵などがありますが、柵の高さを1.8m程度にする必要があるため、シカにトタン板は向いていません。
- ネット柵の場合ネットの上部を横パイプで補強することも有効です。このタイプの場合、高さ1.5mでシカの侵入を防止している事例もあります。
- 対象となる動物がシカだけの場合には、電気柵の必要はなく、効果や耐久性からすると、高価ですが金網フェンスも有効な選択肢の一つです。



### ネット柵の設置例



### 2 電気柵の活用

シカとイノシシの双方に対応する場合には電気柵が適しています。電気柵を設置する際は電線を20cm間隔で7～8段張りにします。電線の間隔が広すぎたり、通電していないなどの不備があると、シカが電線をくぐるようになります。この際電気柵の奥に防風ネットなどを設置するとシカに警戒心が呼び戻され、また電線に触れるようになります。

### 3 定期的に柵のメンテナンスを！

柵に穴が空いたりすると、シカはその穴の場所を覚えて執拗に侵入しようとします。補修はしっかりと行い、侵入されないように定期的な管理が必要です。

# ニホンザルの生態と対策

ニホンザル(以下サルとする)は学習能力が高い動物です。どんなときに何をすれば農作物を守れるのかを知るためには、まず知恵比べの相手であるサルのことを知っておくこと。“まず柵ありき”は間違いです。

## 生態

**食性** 雑食性で、植物性のものを中心に食べ、果実や虫も好んで食べます。トウガラシ、コンニャク、シソ、ゴボウ、ショウガ、ワラビなど、辛味や香り、アクの強い植物を避ける傾向が見られます。

**行動** 早朝と夕方が採食のピークで、日の出から日没までの明るい時間だけ活発に行動し、夜間は活動しません。群れによる集団で行動し、決まった行動範囲の中で周期的に動きます。群れはメスと子どもを中心に構成され、十数頭から百頭を超えることもあります。オスは大人になると群れを離れて単独で行動したり、他の群れに移ったりします。集落内の食べられるものを少しずつ覚えていきます。木登りとジャンプが得意です。

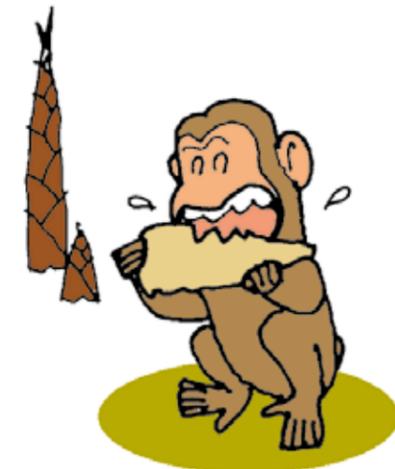
**繁殖** 交尾期は年1回で秋から冬、出産期は春から夏です。2～3年に1頭の割合で出産しますが、餌が豊富にあると年1頭ずつ産みます。寿命は20歳前後です。

## 特徴

- 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚は人間とほぼ同じです。
- 一度味わった恐怖体験は忘れません。場所や状況も覚えています。
- 土地への執着は深いですが、群れ同士のバランスがくずれたり、環境に大きな変化があれば新しい土地に適応する柔軟さもあります。
- 新しいものや状況、場所を警戒しますが、いったん慣れると大胆に行動します。“人慣れ”が進むと追い払うのは難しくなります。
- 長距離を走るのは苦手で、安全な場所から離れることを嫌がります。
- 群れで行動するので、数頭が柵越しても他のサルが入れないとその餌場はあきらめます。

## 被害状況

- 主に果樹、野菜、水稻、大豆、イモ類が食害されます。
- 群れで加害するので、短時間でも被害が大きくなります。



タケノコも大好物

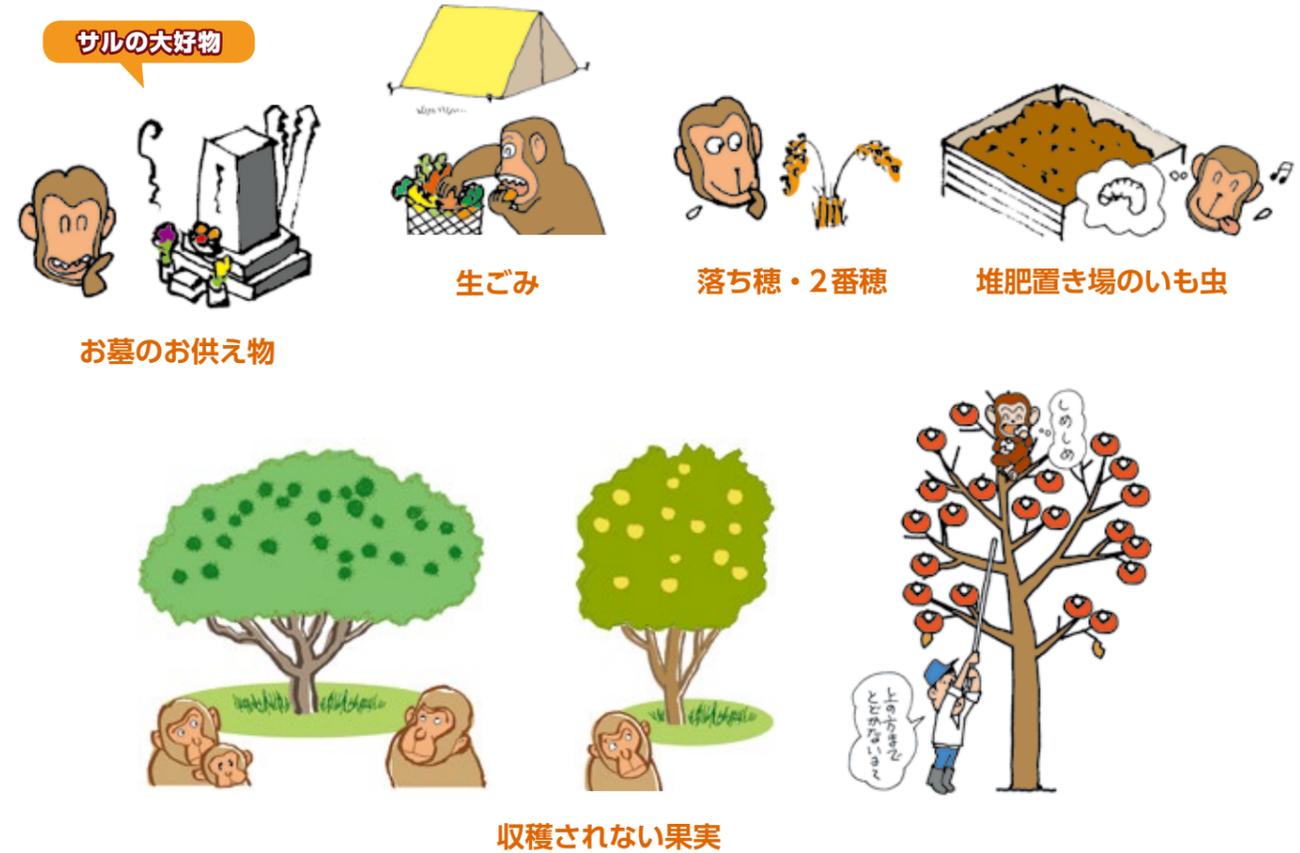


オスは単体で行動することも

## 被害防止のためのワンポイント・アドバイス

### 1 餌になるものを野外に放置しない!

サルはいつでも餌を狙っています。軒先など屋外には餌となるような農作物を保管しないでください。集落内に放置された生ごみ、収穫されない果実、遅れ穂などは格好の餌となります。



### 2 地域ぐるみで「追い払い」を!

サルの唯一の天敵は人間です。侵入したところを脅かされるなど、怖い目にあうことの多い集落は次第に避けるようになります。

追い払いなどの威嚇する行為は、あきらめずに集落全体で力をあわせて根気よく進める必要があります。

### 3 サルの習性を考えて柵の設置を!

防護柵を設置するのは一つの方法です。しかし、柵が樹木や建物のそばにある場合、ジャンプして柵を乗り越えます。飛び移れないように防護柵は周囲の樹木や建物などから5m以上あける必要があります。また、サルが手を伸ばしても盗まれないように、農作物は柵から離して植えつける必要があります。

サルは柵を登ることが出来るので、金網柵と電気柵を組み合わせた複合柵が有効です。